教員採用試験体験記

令和6年度卒業生　法学部法律学科　宮崎　浩駿

　私は、令和6年度北海道公立学校教員採用候補者選考検査を受けました。結果は無事合格することができました。職種は北海道中学校社会です。教員採用試験に合格することはとても難しい、特に社会という教科は免許を比較的どこの大学でも取れるため倍率がとんでもないことになり合格が困難と言われています。しかし、私が思うにこれは過大評価です。確かに倍率は高いですが、決して合格することができない試験ではなく、準備さえ怠らなければ誰にでも十分なチャンスがある試験だと思っております。これから書くことは、教員採用試験に受かる上での重要なポイントです。ぜひ役立ててもらえれば幸いです。

ポイントの一つ目は、【教員採用試験の内容を知ること】です。どんなこともまずは知ることが大切です。経営学で有名なドラッガーは著書『明日を支配するもの』の中で、「知識労働の生産性向上のために最初に行うことは、行うべき仕事の内容を明らかにし、その仕事に集中し、他のことはすべて、あるいは少なくとも可能な限りなくすことである。」と言っています。試験勉強も同じで、やるべきこと・やらなくてもいいことを明確にすることは必ずやるべきです。これが明確にされていないと勉強のモチベーションが高められず勉強をさぼり続け、気が付いたら試験当日を迎えてしまいます。

試験の内容を簡単に説明します。北海道の教員採用試験は札幌・それ以外という2つに区分されております。私は地方の小さな学校から経験を積んでいきたかったので札幌では受験しませんでした。中学校社会の場合は、1次試験で筆記試験、2次試験で適性検査・教科等指導法検査・面接試験という大きく4つの試験を行います。

筆記試験では特に取捨選択が必要です。私の場合は、教職教養・一般教養・専門教養の3つの分野で筆記試験を行いました。教職教養（20点）・一般教養（20点）・専門教養（100点）という配点です。ざっくりと内容を書くと、教員に関する法律・中学レベルの一般常識問題・高校レベルの専門教科の問題というようなものです。配点から分かるように専門教養がカギを握ります。特にその中でも、学習指導要領が6割近くを占めておりとても大切です。シンプルな暗記なのでひたすら覚えてください。専門教養は1問5点なので1問がとても重いです。専門教養の中で学習指導要領は得点源です。全問正解を目指してください。どの分野も範囲がとても広いので、すべてを覚えるのは不可能です。過去問を書店で買って、問題の傾向を知り、何をやり、何をやらないのかをはっきりさせておきましょう。（私の場合、世界史は捨てて他の分野に力を注ぎました）

中学校社会の場合、私の時のボーダーがおそらくですが、教職教養・一般教養が7割、専門教養が8割だと思います。なかなか高いシビアな点数を取らないといけません。しかし、問題の難易度は近年下がり続けているように感じます。大切なことは、難しい問題以外は落とさないことです。

　1次試験をパスできたら2次試験に進むことができます。2次試験では適性検査・教科等指導法検査・面接試験の3つを行います。適性検査は教員にふさわしい人間かを調べる簡単なマーク式のものですので、これは気にしなくて大丈夫です。

　教科等指導法検査は、授業の留意点や具体的な指導法、評価基準を問うてくる試験です。これは最近できた試験で、過去問がとても少ないです。対策としては普段から、過去問を見て傾向を知ることは言うまでもなく、教科書を見て、自分ならどのような資料を用いてどのような指導を行うかを考えたりすることや、様々な指導案を見て評価基準をどのように定めているかを知ることが有効だと思います。詳しくは大学の教授に質問するといいと思います。（私は川原先生から教わりました）

　2次試験で一番大切なのは、面接試験です。ほぼこの試験で合否が決まります。面接官は2人で、2回の面接があります。面接では教員に関する様々な質問がされます。その内容はインターネットで書かれていますので調べてみてください。

面接試験で大切なことは、願書で手を抜かないこと・回答をあらかじめ準備すること・何度も誰かと模擬面接をすることです。願書はとても大切です。面接試験では願書の中からいくつも質問されます。願書には、自分の強みやアピールしたいことを字数が許される限り書いてください。私の場合は7割近く願書の内容から質問されました。

願書で記載した内容が質問されてもしっかりと回答を準備しておいてください。また。質問は単発ではなく、そこから深める質問をしてきます。その回答も用意しておいてください。また、教員に関する時事問題に関する質問もされますので、普段から教育時事にアンテナを張っておくことも大切です。（私の場合は、最近気になった教育に関することは何ですか？こども家庭庁とは何ですか？人権と関連付けて答えてください？などを問われました。こども家庭庁に関しては回答できませんでした。）

ある程度回答が準備できたら、模擬面接をひたすらこなしてください。やればやるほど力がつきますし、回答もより良いものになります。（私の場合は、大学の教授のところに何度も通って練習させてもらったり、友達とライン通話でお互いに練習していました。）

　二つ目のポイントは、【早めに勉強を始めてしまうこと】です。私は勉強を大学2年生の前期から始めていました。しかし、私は教員採用試験の勉強を始めたわけではありません。教員採用試験の勉強は4か月程度しか行っていません。何をしていたのかというと法律の勉強をしていました。法学検定試験や宅地建物取引士試験に合格するために早い時期から勉強をしていました。この資格の勉強が教員採用試験でもとても生きたと思います。私は教員採用試験の勉強は毎日5時間以上行っていました。5時間以上の勉強するのはとても難しいです。０からできることではなく少しずつ時間を増やしていくような助走期間が必要です。その助走期間が私の場合、資格勉強でした。特にこれをお読みになっている法学部の方でしたら、宅地建物取引士試験はとてもおすすめできる資格試験です。合格率17％という厳しい試験です。教員採用試験の筆記よりも勉強した感じ難しいです。教員採用試験で勝負するよりも前に、この試験で勝負しておくことで、本番の助走期間になりますし、合格すれば大きな自信を得ることができます。（卒論・卒業試験も免除してくれますよ）

　最後のポイントは、【なぜ教員になりたいのかを明確にすること】です。私はこれが一番大切なことだと思っています。私は大学に入学する前から教員になろうと思っていました。しかし、なぜなりたいのかと聞かれたら、子供が好きだとか、教えるのが好きだとか、安定しているからという動機としては希薄なものでした。このころの私は、教員に本当になりたいのか自分でも疑問だったし、なれるとも思っていませんでした。なんとなく教職課程をとり、講義を受けていました。2年になったころに社会科教育法という講義を受けました。その講義の教授は人権を軸に世界の弱者に目を向けさせた授業スタイルでした。この講義を受けて、今まで受けてきた授業という概念がひっくり返りました。授業はこんなに面白くなり、こんなに生徒の主体性を刺激できるのかと感動しました。それから私は自分から勉強を生まれて初めてするようになりました。私の人生の大きなターニングポイントだと思っています。私も子供たちの主体性を刺激させられるような面白い授業ができるようになりたいと本気で思うようになり、4年間頑張って勉強を続けてきました。この動機を見つけることが無かったら、途中であきらめていたかもしれません。あきらめていなくても採用試験には落ちていたと思います。なぜ教員になりたいのかを明確にすることは教員採用試験合格だけではなく、その先の教員人生にも大きく役立つと確信しております。まずは、大学の講義を受けながら学び、自分と向き合いなぜ教員になりたいのかを探す・考える作業をすることをおすすめします。それが意外と合格への最短ルートなんじゃないかなと思っています。

　勉強が辛くてやめたい時期というのは必ず来ると思います。そんなときは一度ペンをおいてみてください。ゲームをしたり、友達と遊びに行ったりしてください。皆さんは大学生なので、勉強ばかりではなく遊ぶこともした方がいいと思います。大事なのは、やるときはやることです。本気で勝負するときは孤独なってでも自分と向き合って努力を惜しまない、それ以外はうまく手を抜きながらこなせばよいのです。そうやってこなしていけば、いつしか、辛かったことも楽しく感じるようになります。ぜひ勉強も遊びも楽しんでみてください。そして、周りの支えてくれている人たちには感謝を言葉にして伝えてください。私はこれから教員人生を楽しんでいこうと思います。みなさんも今を楽しんでください。